

## 米株 今週に入り3日続落。調整脱却の鍵はインフレ懸念の沈静化か

## ■ 米株は先週楽園、今週苦境

米国株式が大きく下落しています。先週7日、NYダウとS&P500が揃い最高値を更新したのも束の間、今週は昨日まで3日続落、この2指数はそれぞれ約3%、4%下落しました。

今次の下落局面を先導するのはハイテク企業の構成割合が高いナスダック総合指数、本邦大型連休前の4月26日に最高値更新した後に調整局面入り、昨日までは約8%、今週に入ってから3日続落で約5%下落と大きく調整しています。

## ■ 背景は期待修正とインフレ懸念

主な背景は2つ、一つはハイテク企業などへの市場の過度な期待の修正、もう一つは先行きのインフレ懸念とみえています。前者は量的金融緩和策の副作用といえ、これまででもそして今後も度々経験するとみえています。一方、後者は米FRB（連邦準備理事会）の見立てと同様に一過性とみえています。このため、今回の調整が下落トレンドの契機だったと、のちに後悔する可能性は低いと楽観的にみえています。

## ■ テクニカル面では今回は過去と様相異なる

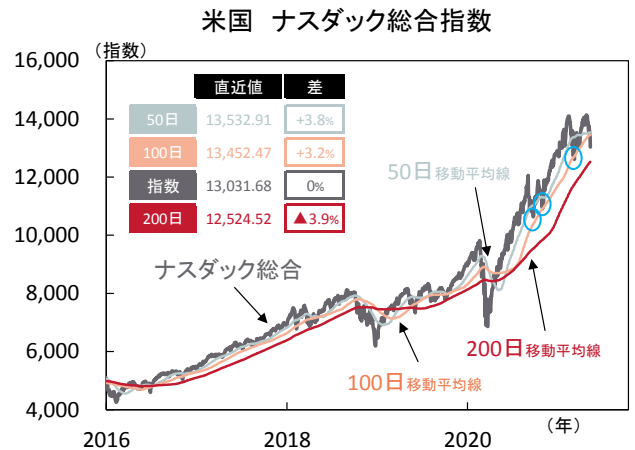
但しテクニカル面では心配もあります。今回の下落局面は直近一年の下落局面と表情が違うためです。直近一年間では、ナスダック総合指数は100日移動平均線が支持線となり反発しています（図1）。しかし今回は既に200日移動平均線を窺う水準まで下落、下落率は過去の調整局面とさほど変わらぬものの、今後この200日移動平均線を明確に下抜けるならば、楽観見通しの再考が必要になりそうです。

## ■ やはり目先の焦点はインフレ懸念

目先の株価の焦点は、FRBと市場参加者で議論が割れるテーマ、インフレは経済活動が再開当初の混乱を経た後もなお加速が持続するか？とみえています。昨日の4月消費者物価上昇率（CPI:前年比+4.2%）は市場関係者のインフレ加速懸念を一段と高めました（図2）。一方持続懐疑派は経済活動再開当初の供給の一時的目詰まりと主張します（図3）。

我々は、インフレの持続性は乏しいとみえています。持続性を確信させる材料、例えば新たな付加価値を提供する財・サービス等への需要や、旺盛な資金需要等に乏しいためです。生産や消費等の経済活動が一国に留まらない経済の仕組み（グローバル化）が多くで確立しているいま、（財・サービスを供給する）企業の価格決定力と労働者の賃金交渉力は低下しています。経済の正常化に応じ、インフレ懸念は次第に息を潜めるとみえています。（徳岡）

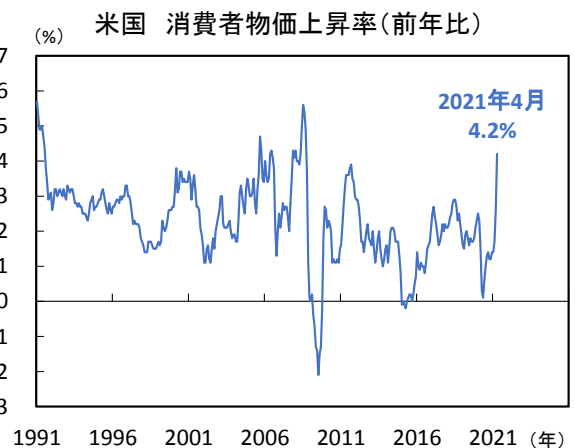
【図1】ナスダックは100日移動平均を下抜け



注) 直近値は2021年5月12日。青色丸は直近一年の下落局面において、指数が100日移動平均線近傍で反発をみせていることを示す。

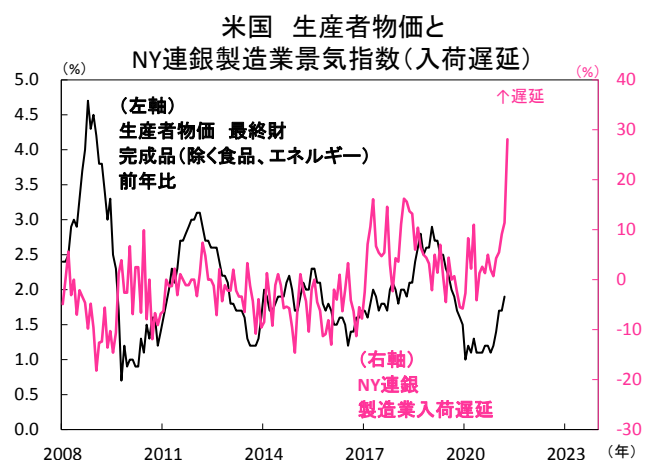
出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図2】米4月消費者物価上昇率は急上昇



出所) 米Bureau of Labor Staticsより当社経済調査室作成

【図3】供給側が需要急増に追いついていない



注) 直近値は、生産者物価は2021年3月、NY連銀製造業景気指数(入荷遅延)は2021年4月。

出所) NY連銀、米労働省より当社経済調査室作成

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会